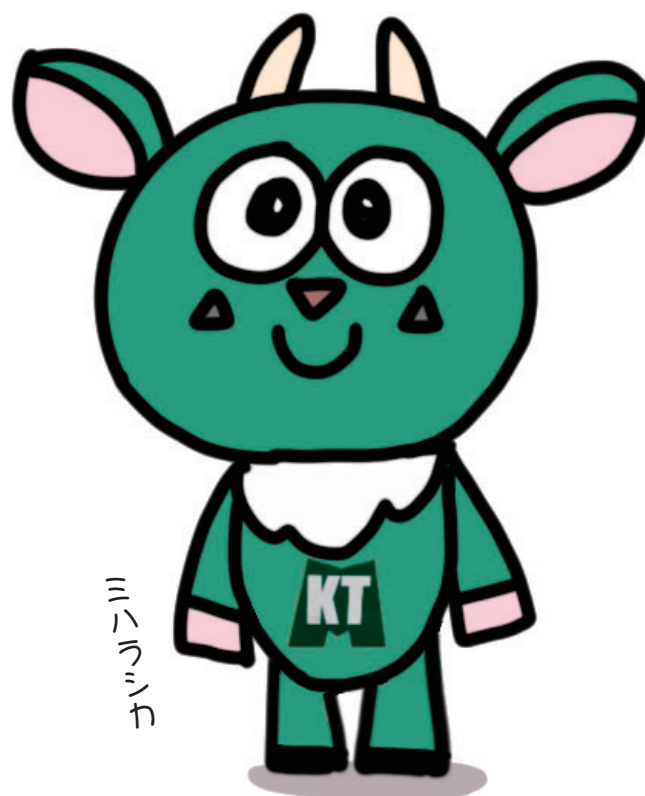


高尾城址見晴らし台愛好会 KTM

5周年記念会報



<http://ktm.nscreate.net/>

2020 年 12 月 5 日
高尾公民館

KTM 5周年を顧みて

金沢高尾城址見晴らし台愛好会会長 星 良衛

町口さん、村上さんから提案があり、高尾城址見晴らし台愛好会を結成し、5 年を迎えようとし、会員が 40 人にまでに至ったことに、敬意を感じております。
ひとえに、事務局長の町口さんの努力のたまものです。

高尾城址との関わりは、私が昭和 50 年代前半(1978 年)高尾南に転居してきてからです。高尾城址の存在を知ったのは、昭和 40 年代の新聞記事で、「高速道路の土取り場として消滅しようとする」と、金沢大学史学部の井上教授が声を上げ、土取り工事が中断したことです。

ここは、富樫氏の櫓砦(本拠は野々市市本町 2 丁目付近)が、1470 年代、一向宗の百姓に滅ぼされ、以後、織田信長方の柴田勝家に 1570 年代滅ぼされるまで約 100 年間、「百姓の持ちたる国」と教科書にも載る一向宗の拠点として、城砦が整備され、維持されていたという史跡でした。

工事中断後、県教育センターとして整備され、切り取られた城址の法面にサクラが植樹されておりましたが、雑木が生い茂り、藪となり、徐々に竹藪が浸食してきていました。

そのような状況で、私は、法面の茅を家庭菜園の肥料として採集したり、教育センター右側の(現在の西側階段をたどるルート)竹藪を切り開いたり、見晴らし台や、その法面の竹を切ったり、城址の藪の中に入り、春には、タケノコを掘ったり、山ウド、蕨、山椒の葉、夏には、野いちご、秋にはアケビをもぎったりして格好の遊び場として息子たちと遊んだりしていました。また、高尾町の林さんが、サクラ愛護活動をしようとするすることがあり、一緒に法面の雑木の除去、桜の保護などを行っていました。

2011 年、山出保市長が南部歴史夢街道、見晴らし台の整備を始め、見晴らし台が市の事業として整備されることになりました。整備された見晴らし台は、美川から内灘、津幡まで一望の下に見晴らすことができ、サクラ、日本海に沈む夕日、日本海の漁り火、眼下で催される花火など四季の移ろいは、すばらしいものです。

見晴らし台のロケーションは、自宅から見晴らし台まで、高低差、約 100m で、適当に歩行負荷がかかり、毎日の散歩コースとして、欠かせないものになりました。散歩の途上では、カモシカとか、鹿に会うことがあり、それも 1 つの楽しみとなりました。

しかし、整備はされましたが、整備後のメンテナンスは行われず、作りっぱなしの状態、見晴らし台、階段には草が生え、やがて、階段が壊れてきたりして、歩きにくい状態になりました。当初、階段の草引きをしながら、見晴らし台に上り、見晴らし台でも、また草引きなどをしたり、土曜、日曜日には、一人でツマツマと階段の補修などをしておりました。そんなときに、同じく散歩で上がってくる村上さんと知り合い、センター所長である宗末さんと話をすることがありました。やがて坪坂さん、

町口さんが教育センターに臨時職員として勤務を始め、彼らは、今までの職員とは異なり、通常の勤務時間の午前9時より早く、午前 7 時頃から敷地内や、法面の草刈りなどを始めて、感心していました。また、大額川源流である城址西側を流れる谷川から、教育センターの池へサイホンの原理を利用して、竹藪の中をホースでつなぎ、水を引く事もされました。サイホン方式の導水は、途中で泥がつまり通水ができなくなるので、その保全も私には格好の遊びの対象になりました。

町口さんが退職してその秋、2016 年(平成 28 年)、仲間で階段、遊歩道のメンテナンスをやったらどうかと提案があり、教育センター所長を退いた宗末さんを含め、12 人で愛好会を結成し、見晴らし台周辺の整備保全、来訪者への助言などの活動を始めました。

活動は、毎月第 4 日曜日として、任意の活動を受容し、ボランティア保険に加入して活動開始しました。活動内容は、草刈りを主として、階段と階段周りの補修、竹切り整理などを行い、見通し保全などを行っています。また、活動は、ほどよい汗かきとなり、グリーン・エクササイズとして身体に好影響を与えているものと喜んでいるのは、私一人ではないと思います。

自然を相手にする活動であり、階段の雑草、法面の下草が繁茂し、見通しが制限され、複数の草刈りが必須です。一人でやっているときは、草刈り鎌や、造林鎌を使用して蔓草の除去、雑木の除去などを行っていましたが、愛好会を作り、多人数で草刈機で草刈りをしたり、多人数でツルハシ、スコップなどで階段を整備したりする事は、団体の意義を実感するこの頃です。また 見通しをよくすることは、熊などの接触を防止することにつながり、散策して登ってくる方々の安全に繋がります。夜間に活動するイノシシには、なすすべがない状況ではありますが、、、

今年は、新型コロナウイルスのせいか、花見のシーズンを過ぎても、散歩来訪する家族連れ、高齢者が多く、「ご苦労さん」など挨拶をされると、ボランティア冥利に尽きると感じています。

そして、伏見台美装会のグループと協力して行っているサクラの苗木の保全、下草刈りは、桜の名所としてテレビ、新聞等で話題になり、喜んでいます。

昨年植樹で、1000 本桜となり、5 年後、10 年後の全山に映えるサクラの満開を楽しみにしています。今年から始めた紅葉(いろはモミジ;20 本)の植栽も、やがて、秋の城址を真っ赤に染めてくれることを楽しみにしています。

KTM 5th をむかえて

村上 哲

私が高尾南の住民となったのは、平成に変わって間もない頃でした。当時はまだ見晴らし台も整備できていないヤブ山だった。それでも環境の良い所へ引っ越ししてきたものと自覚自賛して、晴れた日には毎日禅が峰神社からセンター駐車場への道を登り、センターの周りを周回したものでした。時々だがヤブ山の頂上まで、蜘蛛の巣だらけになって登ったものです。頂上からの見晴らしも現在ほど開けておらず、ヤブで覆われていました。

金沢市が見晴らし台の整備に取り組み、山に小型のブルドーザーや重機が入り、西側の登山路の整備が始まると、完成を待ちきれず進捗状況を見に行きました。工事中は中に入れませんので、工事の人が来る前に頂上まで登り、悦に入っていました。

工事の落成があり、当時の市長さんもお見えになって盛大な式があったことを新聞で知り、いよいよ完成したな・・と感慨にひたり、これらは毎日でも登れるぞと心に期すものがありました。

そもそも高尾の山との繋がりには「燃えよ高尾城」の童話作家・かつおきんやさんを囲んで懇話会を開いたことがあり、講演もしていただいたことがありました。また高校時代の歴史の先生、故浅香年木氏の授業によることが大きかったと思います。また我が家にひ爺さんがスクラップした切り抜き帳(恐らく明治10～20年頃の新聞と思われる)に「白山参詣 1～4」というのがあり、その文中に「高尾」のくだりがあり、面白いので紹介すると、もともと「たこ多胡」と呼ばれていたが、多胡山ではおもしろくないから、紅葉の美しい高尾山に改めと太平記にあると問答する。また「高尾蕎麦」の看板のある茶屋があり、入ってそばを注文するが、しわくちゃばあさん「そばは今はありません」「看板に偽り云々」の問答。この話題をかつて高尾南にあった居酒屋で話していると、隣にいたお客さんが「たこそば」はうちの代々の屋号です。と話しかけてきた。はたして「たこそば」の屋号の家が今も現存するのか石川政さんにお尋ねしなければなるまい。

このように高尾の歴史は古い。KTM のメンバーも南の新町の人や旧の在所の人達が、お互い情報を交わしながら作業している姿は尊い。また新しい伝統を作っていくのだろう。

グリーン・ジムと金沢廻廊の夢

光が丘3丁目 鎌田啓一

光が丘から見晴らし台、きつい坂を登って、息絶え絶えに見晴らし台にたどり着き、良い眺めで一息ついて、急な道を降りてと、往復一時間位だが高低差は百メートル程の、絶好の散歩路である。一年程通っていたら、星さんに出会って KTM に入れてもらった。皆さんよろしくお願いします。

昨年(2019)秋の西斜面の竹藪整理の結果を見て驚いた。視界を遮る竹藪がきれいになくなって、景色が一変した。見通しが良くなると、解放感とともに安心感が味わえる。いっそ見晴らし台の路全体の見通しを良くすればと考えた。冬の初めに町口さんに相談し、竹切の方法を教わって東側の藪を切り始めた。竹切は危ない目にも遭うが気分が晴れて楽しい。始末は終わらなかったが、なんとか三月末には、東に降りる路が見通せるようになった。本当は東側全部切り払って、古城への展望も開きたいのだが……。

今年二月の中頃だったろうか、畑さんに出会って、見晴らし台の陽当たりを良くするために、南斜面の上側の竹も切ろうと始めると、もう少し下までになって、少し視界が開けたら止まらなかった。畑さんのチェーンソー捌きと集中作業のおかげで、一と月余りで南側にも素晴らしい見晴らしが開けた。四月頃には、込み入った竹藪が近くに迫り熊鈴が欲しかった登り路も、見通し良く安心して登れるようになった。こちら、整理が追い付かず、大半の始末は星さんや皆さんに頼ることになってすみません。

村上さんの応援、武野さんの写真、ありがとうございます。

斜面での作業は全身運動である。スポーツジムならぬ「グリーン・ジム」と呼ぶにふさわしい。道も無いに等しい急斜面を刃物や機械を抱えておっかなびっくり辿って、足元のおぼつかない急斜面で足場を探し体勢を確保して竹を切り倒す、倒れた竹を始末する、巻き付く蔦や刈っても刈っても生えてくる草を刈る。危険を伴う緊張感の中で、斜面の作業では普段使わない筋肉も大活躍する。腕や足だけでなく腹筋背筋も疲れる。始めると、疲れてやめるのではなく、切りのいい所までという気分になるので、体力を十分に消耗する。自前の脱げない腹巻も少し薄くなった。いい運動ができてしかもお役に立つならこれに勝るものはない。なにより、竹を切り草を刈れば視界が開ける。やった結果が文字通り目に見え、達成感や爽快感を味わえる。現役で仕事をしていた時には余りなかった新しい感覚だった。

この一年余で見晴らし台の景色は随分変わった。この景色を維持するには、再生して来る竹の処理と、夏の雑草、特に葛の処理が要になる。再生竹に関しては、竹の1m切りという実験結果が出るこれからが楽しみでもある。夏場の草刈りは、まめに刈っておられる星さんに負う所が大きい。私も出来るだけお手伝いしたい。もっと色々な難度の路や展望所も作りたい。古い資料を見ると、見晴らし台付近を起点に何本かの山歩きの回遊路等があったようなので、これを復活するのも面白い。

更に「金沢廻廊」へと夢は広がる。見晴らし台から前山、満願寺山方面へ大乘寺丘陵公園まで繋げて、反対側には尾根を伝って四十万の石切り場にある遊歩道までが手始めだろうか。竹を広く

切り払って、桜や紅葉を厚めに植えて金沢の街が見晴らせる散策路を作る。地形、地質、土壌、植生などを検討して、良い路を作りたい。街を見晴らせるということは、街からも桜や紅葉が見えるということで、どちらからも素晴らしい眺めになる。両側をかなり広めに開いて見通しを良くすれば、獣の街への侵入の妨げにもならないだろうか。ここまでだと「山環桜路」だが、その次には、卯辰山あたりまで行けば「金沢廻廊」(眺望路の方がいいかな、カタカナ名はやめたい)の主要部ができる。県内にも様々な自然歩道やウォーキングコース(遊歩道、散歩路でしょう)があるので連携しつつ、東に津幡方面へと、獅子吼高原から西へ延ばして「加賀廻廊」、もっと延ばして能登、越前、越中への道と夢は尽きない。

KTM 活動5年の出来事

09/28(日) 初顔合わせ、12名で発足
 2016年 10/22(土) 草刈り
 11/26(土) 竹伐採、歩道整備
 11/26(土) 慰労会
 9月～11月活動。会員20名。延べ46名参加



2017年 03/26(日) 東側歩道、階段整理
 04/23(日) 東側歩道、階段整理
 05/27(土) 西側歩道草刈、見晴らし台草刈
 06/25(日) 草刈、階段整理、若竹切り
 07/05(水) がんばろう会
 08/27(日) 草刈、階段補修
 09/24(日) 草刈、階段補修
 11/18(土) 慰労会
 3月～11月活動。会員23名。延べ52名参加



2018年 03/17(土) 東側階段補修、造成。顔合わせ
 04/22(日) 西側階段補修
 05/27(日) 06/24(日) 階段補修、見晴らし台草刈
 07/22(日) 08/26(日) 草刈、階段整理
 09/23(日) 草刈、階段整理
 10/27(土) 西側階段登り口草刈
 11/04(日) 桜の苗木の植え込み準備
 11/25(日) 階段、見晴らし台草刈、桜の苗木植樹
 12/01(土) 慰労会
 3月～11月活動。会員28名。延べ87名参加



2019 年 01/27(日)、02/24(日) 桜の回廊準備
 03/16(土) 桜の回廊造成。顔合わせ
 05/12(日)18(土)26(日) 草刈、階段整理
 06/02(日) 西側、竹伐採、階段草刈り
 06/22(土)～23(日) 吉の谷セミナーハウスで研修会
 07/06(土)14(日)15(月)28(日) 草刈り、竹刈り
 08/25(日) 草刈り、桜の木の周り除草
 09/08(日)21(土)22(日) 西側竹林を大規模伐採
 11/17(日) さくら植樹 1000 本達成！！
 12/07(土) 慰労会
 1 月～12 月活動。会員 40 名。延べ 160 名参加
 ヘルメット作成。プレハブ物置設置



2020 年 03/22(日)28(土) 高尾千本桜仲通りの整備
 03/28(土)PM6:00 顔合わせ
 05/24(日) 草刈り
 06/28(日) 草刈り、伐採後の竹整理
 07/26(日)、08/02(日) 草刈と竹の除去
 08/22(土)、08/23(日) 側竹伐採と草刈り
 09/27(日) 桜補植のための支柱作りと、下草刈り
 10/11(日) 東側下草刈り、藪の除去と桜の救出
 10/25(日) 竹の整理、桜の補植の位置探索
 11/15(日) 桜ともみじの苗木を植樹
 延べ 121 名参加 1 月～12 月活動。会員 42 名
 Tシャツ作成

